

株主インフォメーション

○配当金はお早めにお受け取りください。

配当金領収証による配当金のお受け取り期間は、平成20年1月31日までとなっております。配当金領収証をご持参のうえ、お近くのゆうちょ銀行の全国本・支店及び出張所並びに郵便局（銀行代理業者）でお早めにお受け取りください。

○お受け取り期間を過ぎたら？

お受け取り期間を過ぎますと、ゆうちょ銀行の全国本・支店及び出張所並びに郵便局（銀行代理業者）でのお受け取りができなくなります。住友信託銀行の本・支店の窓口でお受け取りになるか、配当金領収証の裏面記載のお受け取り方法欄に必要事項をご記入のうえ、住友信託銀行証券代行部までご郵送ください。

○配当金領収証を紛失された場合は？

住友信託銀行証券代行部までご連絡ください。なお、お支払いの手続きに時間を要しますので、あらかじめご了承ください。

○銀行振込指定のおすすめ。

配当金領収証による配当金のお受け取りは、お忘れになることもありますので、安心・確実な銀行振込によるお受け取り方法をおすすめいたします。詳しくは住友信託銀行証券代行部までお問い合わせください。

株主メモ

事業年度	毎年9月21日から翌年9月20日まで
定時株主総会	毎年12月
権利確定日	期末配当 毎年9月20日 中間配当 毎年3月20日
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	(住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417 (その他のご照会) ☎0120-176-417
(インターネットホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 全国各支店
公 告 方 法	日本経済新聞に掲載

株主の皆さまの声を聞かせてください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆さまの声を聞かせていただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ですが、アンケートへのご協力をお願いします。

●アンケート実施期間は本書がお手元に到着してから約2ヵ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させていただきます。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 4671

いいかぶ

検索

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。

✉

空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

📱

携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承認なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

株式会社 ファルコ バイオシステムズ

〒604-0911 京都市中京区河原町通二条上る清水町346番地 TEL(075)257-8500

FALCO REPORT

第20期年次報告書

平成18年9月21日から平成19年9月20日まで

■ 当期ハイライト

■ トップメッセージ

「臨床検査事業を核に、強みを活かした事業展開で市場における優位性を確立します。」

■ 事業戦略

■ 特集 知るは、予防の一步。「メタボリックシンドローム」

■ 連結／単独決算の状況

■ トピックス

■ 株式の状況

■ 会社概要

株式会社 ファルコ バイオシステムズ

証券コード：4671



当期ハイライト



当社の強み

- 医療に関わる情報、技術、サービスの全方位型の事業展開。
- 充実したラボネットワークにより、幅広い地域での検査受託体制を整備。
- 独自の精度管理プロセスにより、高品質な臨床検査サービスを提供。
- 臨床検査事業で培ったノウハウにより、地域医療の高度情報化を推進。
- グループネットワークを活かす調剤薬局を展開。



業績ハイライト (連結)

売上高	350億92百万円	6.9% UP
営業利益	14億32百万円	16.5% UP
経常利益	13億40百万円	6.6% UP
当期純利益	7億9百万円	



トピックス

- 東海エリアの基幹ラボトリーとして東海中央研究所が本稼働。
- BRCA1、BRCA2遺伝子検査の臨床的有用性を確認。
- 「株式会社ファルコファーマシーズ」を設立。
- 臨床子会社5社を統合し、グループ再編を実施。
- 大腸がん関連遺伝子特許を有する米国のジェンザイム・コーポレーションと特許使用許諾契約を締結。

臨床検査事業を核に、強みを活かした事業展開で市場における優位性を確立します。

グループ全体で事業の効率的な運営を図り、戦略的に活動しました。

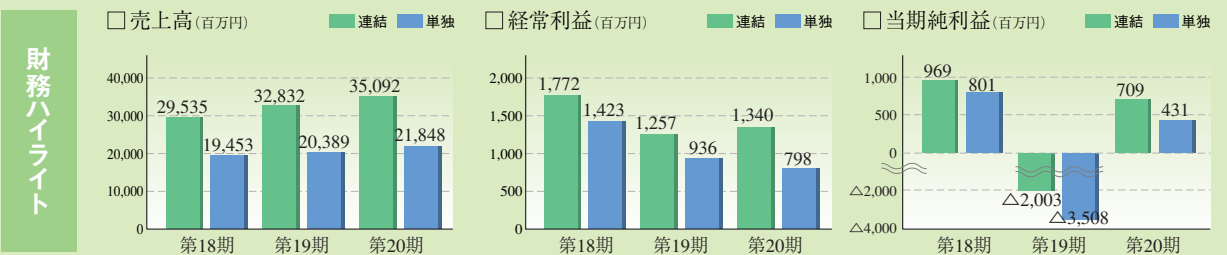
国は、医療費抑制策の一つとして、病気の発症を未然に防ぐ予防医学に力を入れております。この予防医学の分野においても、臨床検査は更に重要な役割を果たすと確信しております。当社は臨床検査事業と調剤薬局事業を盤石にしつつ、病気の発症リスク診断等ができるヒト遺伝子検査をはじめ、新たな事業にも積極的に取り組んでいきたいと考えております。

このような状況のもと、臨床検査事業では、新規顧客の獲得、営業エリアの拡大など売上の増加を図るとともに、受託単価の適正化・維持、検査原価の低減及びグループ再編などを進め、収益力の向上に努めてまいりました。

また、調剤薬局事業では、新規店舗の開局を推進する一方、事業を統括する持株会社を設立し、経営の効率化を図るとともに、既存店舗の原価管理を徹底して行うなど、収益力の向上に努めてまいりました。



代表取締役会長兼社長
赤澤 寛治



この結果、当期の連結売上高は350億92百万円（前期比6.9%増）、経常利益は13億40百万円（前期比6.6%増）、当期純利益は7億9百万円（前期は、当期純損失20億3百万円）と増収増益になりました。

臨床検査事業では、営業エリアの拡大などの基本戦略を実践しています。

重点強化地区として活動してまいりました首都エリアでは、平成19年1月に「千葉北営業所」、及び地域の基幹病院の門前ラボラトリーとして「東関東ラボラトリー」を開設いたしました。

これは、営業エリアの拡大、顧客ニーズに即した提案営業の強化等の基本戦略に基づき、営業活動を積極的に行った結果であります。

また、東海エリアでは営業所の統廃合を行うとともに、東海中央研究所を核とした検査・営業体制の再構築を行い、サービス強化に努めております。更に、グループ再編を行い、業務の効率化、コスト削減に取り組んでおります。

臨床検査の中で注目を集めているのがヒト遺伝子検査です。

当社は、首都エリアの5医療機関と共同で、日本人の乳がん・卵巣がん患者におけるBRCA1、BRCA2遺伝子の変異を解析し、遺伝子検査としての臨床的有用性を確認する研究を実施してまいりましたが、本年6月に開催された第13回日本家族性腫瘍学会学術集会においてその成果を発表することができました。BRCA1、BRCA2遺伝子検査の意義をより多くの医療関係者並びに検査対象者の皆さまにご理解いただけるよう、本格的な普及に向けて営業活動を展開していきたいと考えております。

また、昨年8月にジェントリス・コーポレーション（米国）と業務提携し、技術移転を受けたPGx（ファーマコゲノミクス）解析は、米国FDA（Food and Drug Administration：食品医薬品局）基準に準じており、日米両市場で医薬品の発売を予定している製薬会社から検査の受託を開始いたしました。PGxは、医師が治療薬を処方する前に

患者の遺伝子を調べ、適切な治療薬を選択するオーダーメイド医療にも活用されることが期待されています。当社は、PGx解析技術のノウハウの蓄積を進めるとともに、製薬会社、医療機関等に対する営業活動の強化を図ってまいります。

2011年の診療報酬請求の電子化に向け、医療機関のIT化が一気に進みます。

当社は、臨床検査事業の他に、電子カルテや診療支援システムなどの医療情報システムの開発・販売も行っております。特に電子カルテは、診療所向けと病院向けを提供しており、医療機関の幅広いニーズに対応することができます。現在、電子カルテの普及率は全国平均で約10%程度であり、診療報酬請求が電子化される2011年に向けて、一気に普及すると予想されています。こうしたことから、当社は、子会社のコスミック株式会社との共同販売体制を強化するとともに、臨床検査事業のネットワークを活用し、電子カルテなどの医療情報システムの販売活動を積極的に展開してまいります。

調剤薬局事業では、更なるグループ経営の効率化及び収益力の向上に努めます。

2006年の医薬分業率は全国平均で55%を超えたことに加え、医療費抑制のための薬価改定等の影響により、大手調剤薬局チェーンを中心にM&A等が活発化してまいりました。そのような状況のもと、事業規模の拡大と経営の効率化を図るため調剤子会社の持株会社として、株式会社ファルコ

ファーマシーズを設立いたしました。今後は、この持株会社でM&Aやアライアンス等を行うとともに、調剤薬局事業の経営体制の強化と事業価値の向上に努め、2010年9月期「事業規模300億円（200店舗）」を目標に活動を展開してまいります。



株主の皆さまの期待にお応えするため、積極果敢に挑んでまいります。

当社は、日々検査データを迅速かつ正確に提供することを基本に事業活動を展開してまいりました。しかしながら、基本に忠実なだけでは他社との差別化が難しくなってきております。常に、技術やサービスをワンランク上へ引き上げていく努力が不可欠です。「専門会社だから安心」から「ファルコだから安心」へ、医療総合サービス企業としての社名と品質感を結びつけて見ていただけるよう、ブランド力の強化に取り組んでまいります。医療を総合的にサポートするレベルの高いサービスの実施、それを支える社員の意識向上により、ファルコブランドを構築してまいりたいと考えております。

株主さまをはじめ、ステークホルダーの皆さまには、今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



▶▶ 臨床検査事業

より正確でスピーディな検査受託体制の確立と ヒト遺伝子検査の充実により競争力を大幅に強化。

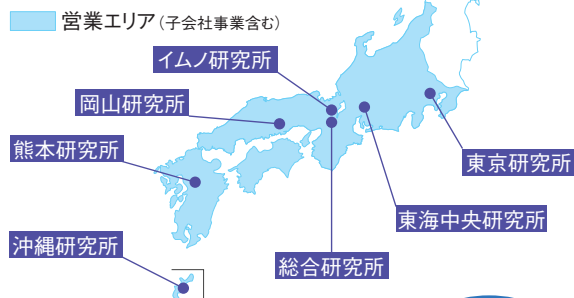
現代医療において、臨床検査は二つの大きな役割を担っております。一つは、さまざまな検査によって病気の診断から経過観察及び治癒に至ったかどうかの診断まで、正確な検査データを提供すること。そしてもう一つは、ヒト遺伝子検査による遺伝性の病気の予防・早期治療や一人ひとりにあったオーダーメイド医療の実現です。どちらの役割においても最先端の設備・技術と医療の現場を直結させ、正確・スピーディに検査データを提供できるよう努めております。

当社は、検査部門の中核施設である総合研究所から、本年7月に稼働した最先端の設備を誇る東海中央研究所まで国内各所に7つの基幹研究所を設置し、検査受託体制を整備しております。これらの検査施設を最大限に活



かし、顧客ニーズに対応した提案営業を強化することで、顧客との信頼関係を強固なものにするともに、新規顧客の獲得などに努め、営業基盤の拡大に取り組んでまいります。

また、ヒト遺伝子検査の分野においては、遺伝カウンセリングの態勢が整っている医療機関に対し、乳がん・卵巣がんの遺伝子検査の本格的な普及に向けた営業活動を積極的に行ってまいります。



メタボリックシンドローム対策により 新たなビジネスチャンス。

病気の予防が国是となる中、生活習慣病と関わりが強いメタボリックシンドローム対策のため、来年4月には40歳から74歳までを対象に健診・保健指導が義務化されます。当社は、地域の医師会と連携し検体受領から検査データの報告まで一貫したシステ

ムを構築することで、生活習慣病対策に即した活動を実施してまいります。ヒト遺伝子検査の受託など高度なサービスから、地域密着型の営業活動まで、当社ならではの強みを発揮してまいります。

常務取締役
臨床検査事業本部長
土田 美喜男



▶▶ 調剤薬局事業

全国に200店舗の 調剤薬局ネットワーク構築を目指す。

2006年の医薬分業率は全国平均で55%を超えており、調剤薬局市場においては、M&Aが活発化し、最近では商社等の参入の動きもあります。当社グループが店舗展開している近畿、北陸エリアでは、医薬分業率がまだ30~40%台であり、今後、伸張することが予想されることから、2010年には店舗数を現在の約2.7倍・200店舗に拡大することを目標にしております。

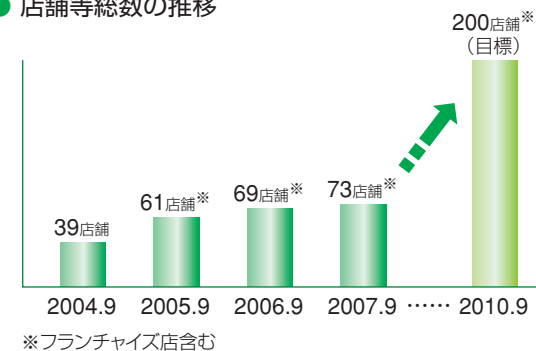
当社グループは、小規模店舗から大規模店舗までさまざまなスタイルでドミナント出店（一定の地域に集中して出店すること）を行うとともに、フランチャイズ制も導入しております。現在は近畿、北陸エリアを中心に店舗展開しておりますが、今後は他の地域においても核となる調剤薬局事



業会社とのM&Aやアライアンスにより拠点を広げ、在宅医療や健康相談の窓口となる地域医療ステーションとして地域に貢献していきたいと考えております。

また、メタボリックシンドローム対策や予防医学に対応した特色のある薬局運営を当社グループならではの臨床検査事業とのコラボレーションにて実現化してまいります。

● 店舗等総数の推移



臨床検査とのコラボレーションで 差別化を実践。

M&Aやアライアンスによるネットワークの拡大を進める一方で、それぞれの地域における競争力をいかに効率よく向上させていくかが課題です。当社グループでは、関東から九州・沖縄まで、医療機関を結ぶ臨床検査事業を展開しており、調剤薬局にお

けるサービスにおいても、そうした医療機関との密接な関係から派生してくる専門的な情報を活用し、身近さと専門性を併せ持った地域医療ステーションを目指してまいります。

株式会社 ファルコクリニカルプラン
株式会社 ファーマプロット
株式会社 MINORI
代表取締役社長 森 正彦

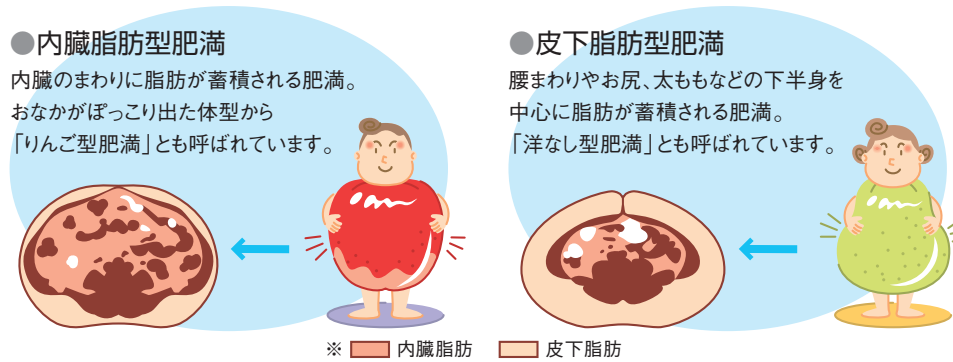


1 「メタボリックシンドローム」とは？

メタボリックシンドロームは、日本語では内臓脂肪症候群と呼ばれています。内臓などに脂肪が蓄積されることによって、さまざまな病気を引き起こしやすくなった状態のことを言います。生活習慣病の代表とされる「高血圧」「高脂血症」「糖尿病」の発症やその悪化に大きく影響すると言われていたことから、肥満傾向にある現代人の食生活を改善し、健康状態を維持していくためにも、正しい知識が不可欠です。

2 おなかが出ていたら「メタボリックシンドローム」？

肥満は、体のどの部分に脂肪がつくかによって「内臓脂肪型肥満」と「皮下脂肪型肥満」の2つのタイプに分かれます。メタボリックシンドロームで問題になるのは「内臓脂肪型肥満」です。



3 「メタボリックシンドローム」の診断基準は？

メタボリックシンドロームかどうかの診断の基本は、ウエストのサイズです。ウエストサイズは、内臓脂肪の蓄積状態を知るための一つの目安だからです。そのうえで、中性脂肪(TG)やHDLコレステロール、血圧、血糖などについても、基準が設定されています。なお、血圧や血糖の場合は、それぞれ高血圧や糖尿病の診断基準より少し低くし、いわゆる予備軍の段階の人も含めるように設定されています。

■日本のメタボリックシンドロームの診断基準

内臓脂肪(腹腔内脂肪)蓄積

ウエスト周囲径
男性:85cm以上 女性:90cm以上
(内臓脂肪面積男女とも100cm²以上に相当)

左記の条件を満たし、右記のうち2項目以上に該当することされています。

脂質: 中性脂肪(TG) 150mg/dL以上 かつ/または HDLコレステロール 40mg/dL未満

血糖: 空腹時血糖 110mg/dL以上

血圧: 収縮期血圧 130mmHg以上 かつ/または 拡張期血圧 85mmHg以上

参考文献:メタボリックシンドローム診断基準検討委員会、メタボリックシンドロームの定義と診断基準 日本内科学会雑誌94、794-809(2005)

4 「メタボリックシンドローム」の検査

●中性脂肪(TG)
中性脂肪(TG)はエネルギー源として糖質が貯蔵用に変化したもので、皮下脂肪に蓄えられます。

基準値	30~149mg/dL
高い	高脂血症(脂質異常)、糖尿病などが疑われます。
低い	肝臓障害、甲状腺機能亢進症などが疑われます。

●空腹時血糖
血糖は正常な場合でも食後に上昇するため、空腹時に血糖を測定します。

基準値	(空腹時)60~109mg/dL
高い	糖尿病が疑われます。
低い	インスリンノーマが疑われます。

●HDLコレステロール
HDLコレステロールは血液中のコレステロールを回収して肝臓に戻し、動脈硬化を抑制する働きをするため、善玉コレステロールと呼ばれます。

基準値	男性 40~77mg/dL 女性 40~90mg/dL
低い	高脂血症(脂質異常)、動脈硬化などが疑われます。

●血圧
血圧とは心臓から出た血液が血管の内壁に与える圧力のことを言います。

基準値	収縮期血圧100~129mmHg 拡張期血圧50~84mmHg
高い	高血圧症が疑われます。
低い	低血圧症が疑われます。

※検査を受けられる際は、正確なデータを得るため、医療機関等から出される注意事項をよくご確認ください。
(注意事項)●検査当日の朝は、飲食・喫煙をしない。●検査前日の食事は、脂肪の多い食事は控え、消化の良い軽い食事をとる。●検査前日は、体を休め、激しい運動をしない。など
※血液検査の基準値は当社検査方法によります。

5 「メタボリックシンドローム」の予防・改善

厚生労働省の平成16年国民健康・栄養調査によると、40~74歳において、男性の2人に1人、女性の5人に1人がメタボリックシンドロームか、その予備軍であることが報告されました。このような状況を改善するため、平成20年4月より、医療制度改革の一つとして、メタボリックシンドローム対策に重点をおいた新しい健康診断が実施されます。具体的には、40~74歳を対象にウエスト周囲径の計測が必須になります。また、その他の検査からメタボリックシンドロームのリスクの有無を調べ、リスクの程度に応じて保健指導が行われます。健康診断を定期的に受診して自分の健康状態をしっかりと把握し、改善すべき項目に早めに対処することが、病気の予防・早期発見・早期治療につながります。

POINT

① 有形固定資産

有形固定資産とは、1年以上使用することを目的として所有され、物理的形態があり、かつその金額が一定額以上の資産を言います。東海中央研究所の建設や検査機器等の取得といった設備投資を行った結果、前期に比べ1,027百万円の増加となりました。

② 営業利益

営業利益とは、売上総利益（売上高から売上原価を差し引いて求められる金額）から販売費及び一般管理費を控除した金額のことを言います。検査原価の低減、コスト削減等により、前期に比べ203百万円の増益となりました。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローとは、主に資金の調達または調達資金の返済など、企業の財務（ファイナンス）に係わる活動に基づくキャッシュ・フローのことを言います。当期は長期借入による収入がなかったため、239百万円の資金の支出となりました。

■連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科目	当期 (平成19年9月20日現在)	前期 (平成18年9月20日現在)
資産の部		
流動資産	12,125	11,805
固定資産	16,586	15,380
① 有形固定資産	11,291	10,264
無形固定資産	1,298	1,198
投資その他の資産	3,996	3,917
資産合計	28,712	27,185
負債の部		
流動負債	13,408	11,173
固定負債	3,540	5,015
負債合計	16,948	16,189
純資産の部		
株主資本	11,626	10,759
資本金	3,371	3,171
資本剰余金	3,363	3,163
利益剰余金	4,929	4,461
自己株式	△38	△38
評価・換算差額等	137	232
少数株主持分	—	4
純資産合計	11,763	10,996
負債及び純資産合計	28,712	27,185

（注）記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

■連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当期 (平成19年9月20日まで)	前期 (平成18年9月20日まで)
売上高	35,092	32,832
売上原価	22,817	20,693
売上総利益	12,275	12,139
販売費及び一般管理費	10,842	10,909
② 営業利益	1,432	1,229
営業外収益	82	169
営業外費用	174	141
経常利益	1,340	1,257
特別利益	204	283
特別損失	77	2,848
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	1,467	△1,306
法人税、住民税及び事業税	738	584
過年度法人税等	—	61
法人税等調整額	20	50
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△1	0
当期純利益又は当期純損失(△)	709	△2,003

（注）記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

■連結株主資本等変動計算書（平成18年9月21日から平成19年9月20日まで）

（単位：百万円）

	株主資本				評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
平成18年9月20日残高	3,171	3,163	4,461	△38	10,759	232	4	10,996
連結会計年度中の変動額								
新株の発行	200	199			400			400
剰余金の配当			△118		△118			△118
剰余金の配当（中間配当）			△123		△123			△123
当期純利益			709		709			709
自己株式の取得				△0	△0			△0
自己株式の処分				0	0			0
株主資本以外の項目の変動額						△95	△95	△4
連結会計年度中の変動額合計	200	199	467	△0	867	△95	△95	767
平成19年9月20日残高	3,371	3,363	4,929	△38	11,626	137	—	11,763

（注）記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

■連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当期 (平成19年9月20日まで)	前期 (平成18年9月20日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,346	1,285
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,452	△2,490
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△239	1,874
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(減少：△)	△345	669
現金及び現金同等物の期首残高	4,218	3,549
現金及び現金同等物の期末残高	3,873	4,218

（注）記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

■事業別の概況

臨床検査事業及び周辺事業

売上高 246億95百万円（前期比5.2%増）

臨床検査事業：新規顧客の獲得など売上の増加を図るとともに、検査原価の低減等により収益力の向上に努めました。

医療情報化事業：電子カルテの受注が順調に推移いたしました。

食品衛生：食品アレルギー検査の受託が増加いたしました。環境検査事業 した。

上記の結果、売上高は増収となりました。

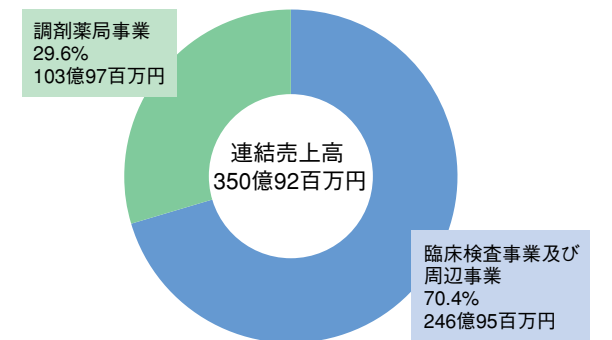
調剤薬局事業

売上高 103億97百万円（前期比11.0%増）

調剤薬局事業：経営の効率化を図るため、平成19年1月に純粋持株会社「株式会社ファルコファーマシーズ」を設立いたしました。また、店舗運営につきましては、スクラップアンドビルドを推進いたしました。この結果、調剤薬局等店舗総数は73店舗となりました。

上記の結果、売上高は増収となりました。

事業部門別売上高割合



■ 単独貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当期 (平成19年9月20日現在)	前期 (平成18年9月20日現在)
資産の部		
流動資産	7,795	7,476
固定資産	16,302	14,950
有形固定資産	9,406	8,091
無形固定資産	680	603
投資その他の資産	6,215	6,255
資産合計	24,098	22,427
負債の部		
流動負債	9,661	7,145
固定負債	3,154	4,495
負債合計	12,816	11,640
純資産の部		
株主資本	11,143	10,554
資本金	3,371	3,171
資本剰余金	3,267	3,067
利益剰余金	4,543	4,353
自己株式	△38	△38
評価・換算差額等	137	232
純資産合計	11,281	10,786
負債及び純資産合計	24,098	22,427

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

■ 単独損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当期 (平成18年9月21日から 平成19年9月20日まで)	前期 (平成17年9月21日から 平成18年9月20日まで)
売上高	21,848	20,389
売上原価	12,477	11,394
売上総利益	9,370	8,994
販売費及び一般管理費	8,680	8,151
営業利益	690	843
営業外収益	255	206
営業外費用	147	113
経常利益	798	936
特別利益	131	247
特別損失	185	4,212
税引前当期純利益又は 税引前当期純損失(△)	744	△3,028
法人税、住民税及び事業税	312	356
過年度法人税等	—	57
法人税等調整額	△0	67
当期純利益又は当期純損失(△)	431	△3,508

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

■ 単独株主資本等変動計算書 (平成18年9月21日から平成19年9月20日まで)

(単位：百万円)

	株主資本										評価・換算差額等		純資産合計	
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金				自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金		評価・換算 差額合計
		資本準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計		配当平均 積立金	別途 積立金	繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計					
平成18年9月20日残高	3,171	3,008	58	3,067	103	600	7,000	△3,350	4,353	△38	10,554	232	232	10,786
事業年度中の変動額														
新株の発行	200	199		199							400			400
積立金の取崩						△600	△2,900	3,500	—		—			—
剰余金の配当								△118	△118		△118			△118
剰余金の配当(中間配当)								△123	△123		△123			△123
当期純利益								431	431		431			431
自己株式の取得										△0	△0			△0
自己株式の処分										0	0			0
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額												△95	△95	△95
事業年度中の変動額合計	200	199	—	199	—	△600	△2,900	3,690	190	△0	589	△95	△95	494
平成19年9月20日残高	3,371	3,208	58	3,267	103	—	4,100	339	4,543	△38	11,143	137	137	11,281

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

東海エリアの基幹ラボトリーとして
東海中央研究所が本稼働

東海エリアにおいて、今まで以上に「迅速かつ正確な臨床検査」を実現する拠点として、平成19年7月に東海中央研究所が本稼働いたしました。

従来の名古屋研究所の機能を移転するとともに、最新の検査機器の導入によって、処理能力の大幅アップや検査項目の拡充が実現されました。



BRCA1、BRCA2遺伝子検査の
臨床的有用性を確認

平成16年12月から首都エリアの5医療機関と共同で実施しておりました、日本人の乳がん・卵巣がん患者におけるBRCA1、BRCA2遺伝子の変異を解析し、遺伝子検査としての臨床的有用性を確認する研究が終了したことにより、平成19年6月に開催された第13回日本家族性腫瘍学会学術集会において、その成果を発表することができました。

臨床子会社を統合し、
グループ再編を実施

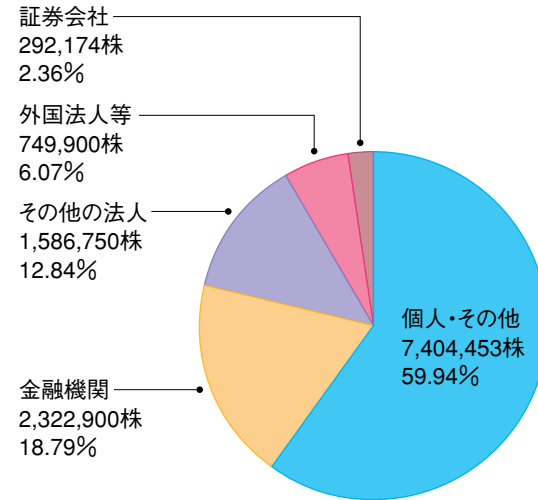
医療総合サービス企業を目指す当社グループは、事業領域の拡大をグループ全体に広げるため、グループ再編に取り組んでまいりました。これにより、中国エリアの2社に続いて、株式会社ファルコバイオシステムズ九州、株式会社志太医研及び株式会社東予中検の3社を当社に吸収合併いたしました。

株式の状況

- ◎ 発行可能株式総数 40,000,000株
- ◎ 発行済株式の総数 12,356,177株
- ◎ 株主数 5,755名

株式分布状況

所有株式数別分布状況



大株主

株主名	持株数 (株)	出資比率 (%)
赤澤寛治	656,790	5.32
株式会社京都銀行	531,600	4.30
ファルコバイオシステムズ従業員持株会	419,420	3.39
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	357,900	2.90
株式会社三菱東京UFJ銀行	315,900	2.56
平崎健治郎	280,370	2.27
矢盛俊男	232,380	1.88
ファルコバイオシステムズ取引先持株会	219,750	1.78
尾藤勇	213,990	1.73
大阪中小企業投資育成株式会社	208,000	1.68

会社概要

社名	株式会社ファルコバイオシステムズ (英文名 FALCO biosystems Ltd.)
本社所在地	京都市中京区河原町通二条上る 清水町346番地
創業	昭和37年7月
設立	昭和57年8月
資本金	33億71百万円
従業員数	781名(単独)、1,399名(連結)
主要な事業内容	臨床検査事業及び周辺事業 ●臨床検体検査の受託業務 ●電子カルテ等の医療情報システムの 開発、販売業務 ●食品衛生・環境検査の受託業務 調剤薬局事業 ●処方箋調剤業務を行う調剤薬局の経営

ファルコグループ

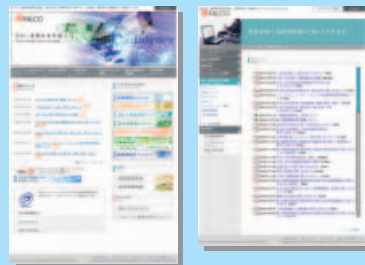
- 株式会社ファルコバイオシステムズ福井
- 株式会社飛騨臨床検査センター
- 株式会社ファルコバイオシステムズ兵庫
- 株式会社ファルココミュニケーションズ
- 株式会社フレスコメディカル
- 株式会社ファルコライフサイエンス
- コスミック株式会社
- 株式会社ファルコファーマシーズ
- チューリップ調剤株式会社
- 株式会社ファルコクリニカルプラン
- 株式会社ファーマプロット
- 株式会社MINORI

役員

代表取締役会長兼社長	赤澤寛治
代表取締役副社長	平崎健治郎
常務取締役	土田美喜男
常務取締役	安田忠史
取締役	四方俊一
取締役	環忠男
監査役(常勤)	矢盛俊男
監査役(常勤)	佐々木信次郎
監査役	木村秀夫
監査役	竹内昭夫

監査役木村秀夫、竹内昭夫は、社外監査役であります。

ホームページのご案内



「株主・投資家向けIR情報」のページには、IRニュース、財務ハイライト、株価情報をはじめ、各種開示資料を掲載しております。決算短信や有価証券報告書は「IRライブラリ」に過去のものから最新のものまでを開示しております。

また、ご登録いただいた皆さまに最新のIRニュースなどをEメールでお知らせするメール配信サービスも行っております。

<http://www.falco.co.jp>

当年度報告書の予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、予想数値と異なる場合があります。